



第31回鬼貫顕彰俳句	
鬼貫賞（小学校・中学校の部） 受賞者決定	
【小学校低学年の部】 三好 結依名さん（神戸小1年） かしわもち かすたねつとに にっているね	
【小学校高学年の部】 斧 宏砥さん（鈴原小4年） 夕立を 一人であびる すべり台	
【中学校の部】 吉本 静穂さん（松崎中3年） 水筒が カランと鳴って 梅雨明ける	
※（ ）内は、受賞当時の在籍校・学年	

令和4年度

教育基本方針（要約）

はじめに

近年は、社会の変化が加速度を増し、新型コロナウイルス感染症への対応に象徴されるように、先の見通しが困難な時代となっています。子どもたちは、そのような時代をしなやかに生き抜いていかなければなりません。

（1）教育の目的

時代や社会に適合し、自分らしく幸せな人生を送ることのできる力をつけることです。一人ひとりの児童生徒が自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる資質や能力を育むことです。

本論

（1）主体的・対話的で深い学び

令和4年度は、このことを視野に、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の学力の3本柱をバランスよく育むために、幼児期の教育から高等学校まで一貫して、子どもが学びの主体となる「主体的・対話的で深い学び」を実践してまいります。

（2）新たな発想に基づく教育の推進

コロナ禍の中で学びを止めないために苦勞して学び取ったオンライン授業など、ニューノーマルを積極的に実践してまいります。答えのない問題に対しては、もう一度原点に戻って考えるなど、物事の本質を見つめ、新たな発想に基づく教育を積極的に推進してまいります。

（3）学校の役割

コロナ禍で再認識された学校の役割である学力や学習機会の保障だけでなく、全人的な発達や成長を保障



伊丹市教育長 木下 誠

する役割を大切にしています。また、安心して人とつながることができる居場所としての役割や、身体的・精神的な健康を保障する役割を重視してまいります。

（4）推進にあたって

全ての教育活動において、良くも悪くも現状から目をそらさず、幼児期から高等学校までの「縦の連携」と、学校・家庭・地域などの「横の連携」を大切にし、あらゆる教育情報の積極的な公開を基本方針に本市の教育を推進してまいります。

結び

教育は日常生活に結びつくものでなければなりません。私たちがポストコロナの日常生活において、心がけなければならないことは何か。サイエンス・スピリチュアリティ・サステイナビリティではないかと思っています。

（1）サイエンス（科学）

新型コロナウイルス対応においても、ワクチン接種が切り札となったように、物事を進めるためには、専門家の科学的な知見を尊重しなければなりません。科学的なエビデンスに基づく対応が必要です。

（2）スピリチュアリティ（目に見えない力）

現在の科学では解明できない精神的叡智（謙虚な気持ちで、つましく生きること）のことであり、これまで、サイエンスとは対立的な概念として捉えられてきました。科学技術のすばらしさを認める一方で、地球の温暖化に象徴されるように、その力をうまく使うことができていないのも事実です。科学だけを優先した「more & more」といった姿勢が地球の滅亡をもたらそうとしています。科学的知見と精神的叡智の緊密な連携が必要です。

（3）サステイナビリティ（持続可能性）

最近SDGsという言葉をよく聞くようになりました。これからの時代は、大量生産・大量消費・大量廃棄の時代ではありません。誰一人取り残さない社会の実現に向け、限りある資源を大切に使うことや、全ての子どもが最適な学校生活を送ることができるよう、人的、物的な環境整備に努めてまいります。

令和4年度
基本方針本文は
こちらから



○ダイハツものづくり教室（瑞穂小学校）



○トライやる・ウィークでの防災教育（天王寺川中学校）